

生と死と愛と

三つの物語 (言語的共同性人間観)

カウンセラーとしての筆者のベースとなっている人間観について簡単に述べたい。それは、「人間とは共に物語る存在である」ということだ。これは次の三つの物語という構造をもっている。

1. 他者と共に現象(モノ・コト)について物語る。
2. 他者と共に自分について物語る。
3. 体験について自分を物語る。

第一の「物語」は、(自然)科学の方法論である。実験と観察あるいは推計によって他者の検証に耐える客観的なデータを考察し、公共性の高い知識を獲得することである。一般にはこの 第一の「物語」が、人間の普遍的な言説を為しているのである。

第二の「物語」は、自分のアイデンティティに共感・共鳴してくれる相手のリアリティによって、自分を確認するという方法である。この最も典型例は恋愛関係である。「大切な人」との出会い、人生の核心の体験である。相手の存在が自分の<いのち>と思える「物語」となる。しかしこの「物語」がマス・レベルで現象すると宗教から、偏狭なナショナリズムまで、その幅は大きく深い。第一第二の「物語」の大きな違いは、仮説に反するデータが発見されれば、自分の仮説を破棄するが、宗教やナショナリズムでは、自分と異なる相手の主張を認めず激しく攻撃することである。

第三の「物語」とは、いわゆる深層心理の現象である。この「物語」の最大の特徴は共に語る相手が「喪失」していることである(この喪失の回復を目指すのがカウンセリングである)。光市母子殺人事件の犯人の元少年に死刑判決が出たが、この元少年には、「自殺した母親」や「暴力的な父親」らの親子関係の体験において、「自分を肯定してくれる保護者」の内的イメージを獲得できなかった可能性がある。このイメージの学習が乏しい者は、自己の欲望をコントロールできず、「他者の痛み」への感受性を失っている場合が多いのだ。(品川 博二/ケア・カウンセラー)

複数の家の位牌を祀ってもよいのですか？



仏事なんでも明解答

(中村 典子さん 52 藤沢市)

現代社会は少子高齢化の時代であります。よく別々の家の仏壇や位牌をまつると噂になり良くないことが起こるなどと言われ、避けられるものですが、かといって行き場のない仏様はどうなるのでしょうか。たとえば、一人っ子どうしの夫婦が、双方の両親を同じ仏壇でお祀りするということは、お互いの存在を尊敬しようという

とであります。お寺の本堂や位牌堂でも、縁に従って、宗派の異なる位牌と一緒に安置して、菩提をお祈りしています。自分自身のいろんな都合で、たとえば、供養することを面倒に思ったりする心が実はいけないとする人の心なのではないでしょうか。構いません。逆に、いけない理由がありません。(小西 教邦/臨濟宗 桂雲寺住職)

みなさまからの仏事に関するご質問をお待ちしております。お気軽にお寄せください。採用分には薄謝進呈いたします。

みなさまの声をおよせください

必要事項をご記入の上、官製はがきでお送りください。抽選で3名の方に全国の加盟店でご利用できるグルメカードをプレゼントいたします。

1. 郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号
2. 本紙に対するご希望
3. 本紙で面白かった記事
4. 本紙に対するご意見・ご感想・ご質問等
5. あなたが最近興味を持っている事

★前号当選者★
松信 恒夫様(町田市) / 寺川 勇様(相模原市) / 沼里 良枝様(平塚市)以上グルメカード3名様。ご応募ありがとうございます。

PRESENT

ジェフグルメカード 3000円相当 3名様

HELLO! お坊さん

日蓮宗 法泉寺 藤沢市亀井野



住職 酒井 光雄

相手の立場にたって 慈悲の心をもつこと

なんでも自分中心で、自分のことしか考えられない人が増えていきます。目立ちただけで殺人を犯すこと、戦争や環境破壊も根は同じように思います。

仏教では「慈悲」がいちばん重要なテーマです。慈しみの心、やさしさ、思いやり。なかでも日本に伝わった大乘仏教は、みんなて救われよう、みんなて幸せを指そうという教えです。今突然ここに自分があるわけではなく、おじいさんやおばあさん、両親、兄弟、友人などに支えられて存在しているの

です。人は、縦、横のつながりがなくては生きていけません。相手の立場を思いやることで、自分だけでなく周囲の状況が見えてきます。そして、それが人をやさしく慈しみ、幸せを導くことにつながっていくのです。幸せそうに見える人でも、内には厳しいものを抱えています。相手の立場にたてば、それを理解して思いやることもできます。幸せな人がいたら、嫉妬するのではなく、慈悲の心をもって、「よかったね、おめでとう」と祝福できるといいですね。

中高年からのパートナーシップ

長い間、生活を共にしてきた夫婦だからこそ、お互いのことはよくわかっているからと、言わなくても済ませてきたことはありませんか。定年退職して一緒に過ごす時間が長くなると、なんだか居心地が悪くて、と言い出すカップルが意外にたくさんいます。

一線を退いた元新聞記者のIさん、奥さんはずっと夜遊び生活から解放されられたと思った矢先、まだまだ元気なIさんは、持ち前の正義感から住民運動の先頭に立ち、勤めていた頃より大忙しです。穏やかな生活を二人で楽しもうと、我慢してきた奥様の気持ちは怒りに変わり、Iさんも居心地が悪くなるのは当然です。

何だか相手がしこっているな、と気づいたら、魔法の4つの言葉を思い出し、「ごめんなさい」「許してください」「ありがとう」「愛しています」。男女を問わず、当たり前のように黙々と家事をこなしてきた人、多少具合が悪くても休まず働き続けた人には、「ありがとう」だけでも心に響きます。本当は毎日、何回でも言う機会はあるはずですね。

もっと難しいのは「ごめんなさい」と「許してください」。罪悪感がある分だけ口にするのが辛い言葉です。でも、「話す」は「放す」、声に出して言うことと罪悪感という気分の悪い感情を手放せて、二人の居心地も良くなります。最後に、誰に対しても「愛しています」と言えば、それは究極の人類愛ですが、まずは長年連れ添ったパートナーに、もう一度、心を込めて、この言葉を贈りたいですね。

(楳林 郁夫・康子/横浜ライフキャリアセンター)

「きぼうのいえ」は病を抱えた身寄りのない人、ホームレスが、わが家のように暮らしながら死を迎える、いわば名もなき庶民のためのホスピスです。

「こんな穏やかなところから、大変な人間界に行くんだね。頑張つて」と見送られ、「とほほ」とため息などを

「よく頑張つて卒業したね。故郷に帰ってきたんだね。今まで学んできたことをこれから活かすように」と迎えてくれると思います。つまり、死は人生最後の神様からのプレゼントなのです。「きぼうのいえ」はこの世への執着と肉体を手放し、無限の愛に満ちた世界へとわたる場所。魂の故郷に帰っていくための準備をする場所です。長く孤独に耐えてきて、世の中を怨み、「生きていることがくだらない、死んだ方がいい」という凍土のような心の持ち主が「きぼうのいえ」にはたくさん来ます。僕たちスタッフはその人たちに愛のシャワーを浴びせかけることで、過去に対する不安感から解放し、新しい1日を生きていく準備ができて、仏の元へ帰るお手伝いをしていくに

感じています。「きぼうのいえ」での日々を通して

ホスピスは痛みをとることが主とされがちですが、それは身体上の問題で、実際にはスピリチュアルな点でのケアの方がより大切なことを、看取りと向き合う日々の中で実感しています。人間の命の本質は魂です。そしてそれは体を卒業してからも永続的に存在し、生まれ変わりをしながら、無限の成長を続けていくのではないかと

思います。人はじくなると、近しい人の魂が呼び合つて集まり、他の魂のグループと呼応して惹き合います。それがしたいに大きな渦巻きとなり、その壮大な命の塊の最も高く尊いところに「神」が座し、僕たちはそこから生まれ、そこへ帰っていくのです。

「きぼうのいえ」はここの世への執着と肉体を手放し、無限の愛に満ちた世界へとわたる場所。魂の故郷に帰っていくための準備をする場所です。長く孤独に耐えてきて、世の中を怨み、「生きていることがくだらない、死んだ方がいい」という凍土のような心の持ち主が「きぼうのいえ」にはたくさん来ます。僕たちスタッフはその人たちに愛のシャワーを浴びせかけることで、過去に対する不安感から解放し、新しい1日を生きていく準備ができて、仏の元へ帰るお手伝いをしていくに

師の助けを借りて死を迎える、いわば名もなき庶民のためのホスピスです。建てる前には「きぼうのいえ」ではなく「無謀の家」と言われましたが、賛同してくださる方々の寄付などに支えられ、5年半の間に60人ほどの方を看取りました。

つきながら生まれ、人の波にもまれ、さまざまに試練に耐え、時には幸せを感じ、また時には辛酸をなめ、ようやく無限の愛に満ちた魂の故郷に帰るわけです。だから、私たちは、じくなる人を「おめでとう」「よかったね」と送り出します。向こうの世界ではきょうと神様が

過ぎません。ブラックホールや量子力学の研究によって、宇宙に存在するエネルギーの中で、物質エネルギーはわずか4%で、残りの96%は非物質エネルギーだそうなんです。現代は物質文明などと言われ、僕たちはいつもモノに囲まれ、五感レベルの生活を100%だと見なしています。しかし、人間の喜怒哀楽は体を解剖しても出てこない。愛も目に見えません。大事なのは、形も色も香りもなく、我々の手に触れることもできない96%の非物質的なエネルギーなのです。そしてそこに、愛や絆、喜怒哀楽の感情、じくなった人の魂が満ちていると考えることは決して不思議なことではありません。

山本雅基



MY TOWN

わたしのとっておきの店
浜めし 茅ヶ崎かぶね楽園
茅ヶ崎市中島 254-1 TEL.0467-84-5358



新鮮な地場の魚と野菜。そしてとことん体の事を考えた絶品ケーキ

かぶね楽園は地場の魚、地場の野菜をとれたてでどこよりも新鮮なまま仕入れられているレストラン。オーナーシェフの矢沢さんが特に今年力を入れているのは、野菜をたっぷり使い、とことん体の事を考えた創作ケーキ。小麦は純国産100%のものを使い、米粉を加えてカロリーカット。種子島産のミネラル豊富で糖と卵は新鮮な地の寿産卵を使用。バター、サラダ油は一切カットし、代わりに体に優しい太白ごま油を使用している。これが今若い女性を中心に大人気ののだとか。人気の湘南野菜のロールケーキ「ズッキーニと豊祝あずき」、「トマト」と「小松菜」、シフォンケーキ「湘南野菜



と紅茶のシフォンケーキ」などアイス付で各609円。テイクアウト(350円〜)もできる。また、ランチメニューは金目鯛とエビのダシで作った「海の石焼カレーライス」がサラダ付きで1,680円。「真あじづくし膳」はとれたての真あじを使い、フライ、お刺身と立田揚げにし、サラダとご飯、お新香、小鉢、みそ汁が付いて1,890円。湘南生シラス料理をはじめ、手作り料理メニューが200種以上楽しめる。

営業時間/ランチ 11:30~14:30 (ラストオーダー) ディナー 17:00~23:00 (ラストオーダー) 年中無休 <http://kabune.com/>

読者プレゼント

山本雅基氏サイン入り著書『東京のドヤ街・山谷でホスピス始めました。』(実業之日本社)を5名の方にプレゼントいたします。ご希望の方は、下記の必要事項およびご希望の本のタイトルをご記入の上、官製はがきでお申し込みください。1.郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号 2.インタビュー記事のご感想 3.本紙で面白かった記事 4.本紙に対するご意見・ご感想 5.あなたが最近興味を持っている事 6.ご希望の本のタイトル

●やまもと まさき
1963年生まれ。東京・台東区の「山谷」地区にあるホスピス、「きぼうのいえ」施設長。1985年、日航機墜落事故のニュースに接したことをきっかけに聖職者を志し、1995年上智大学神学部長を卒業。大学卒業後、「NPO法人ファミリーハウス」の事務局長を務める。2001年、「ホームレスのためにホスピスを建てたい」と考え、看護師の妻とともに活動を開始。妻の貯金を元手に銀行から資金を借り、各地のキリスト教教会や、多数のボランティアの後援を得て、2002年4月、緊急一時保護施設「なかよしハウス」(全11室11床)を開設。2002年10月、在宅ホスピスケア対応型集合住宅「きぼうのいえ」(全21室21床)を開設。著書に『東京のドヤ街・山谷でホスピス始めました。』(実業之日本社)がある。

●宛先 〒254-0053 平塚市桜ヶ丘1-35 平安レイサービス(株) 湘和会堂「KOKO」46号特集インタビュープレゼント係 ●締切 平成20年8月末日当日消印有効 ●本紙47号(10月発行予定)にて当選者発表 ★前号当選者★沖山 美代子様(相模原市)/井上 幸子様(藤沢市)/米倉 五郎様(平塚市)/近藤 洋子様(秦野市)/中西 公子様(茅ヶ崎市)以上5名様。たくさんのご応募ありがとうございました。